類が収録されているわけである．ランの可憐な花が見事に捉えられているだけでなく，自然の育成状態そのままを写しているので，それぞれの種類の野外での様子がよくわかる．着生ランなどは高い梯をかけて撮影するなど，自然状態でのランの美しさを表現するのに苦心している．その結果が奄美の自然の美しさを表しているので，ランを離れても見ごたえのある写真集となっている．（山崎 敬）

□ Critchley A.T. and Ohno M. (eds.): **Seaweed Resources of the World** vxii + 431 + xii pp. (incl. 11 pls.) 1998. Japan International Cooperation Agency (JICA). soft cover ¥3,000; hard cover ¥4,000.

編者の一人大野正夫博士（高知大学海洋生物教育研究センター長）は先に日本をはじめとする世界の海藻栽培と海洋牧場の現状について11章に亘る英文の書 Seaweed Cultivation and Marine Ranching (1993) を編纂して貴重な情報を世界に発信したが，今回，前書同様に南アフリカ Witwatersrand 大学の Crithley 博士の協力を得て，続編ともいうべき世界各国の海藻資源をまとめた本を編集した．40章から成り，扱われる国は，(1) アジア：日本，韓国，中国，フィリッピン，ヴィエトナム，タイ，インド (2) オセアニア：ニュージーランド，オーストラリア (3) 海中海：スペイン，ポルトガル (4) ヨーロッパ：ノルウェー，イギリス，フランス，イタリー (5) 北アメリカ：カナダ，アメリカ (6) 南アメリカ：メキシコ，チリー，ブラジル，アルゼンチン (7) アフリカ：ケニア，タンザニア，ナムビア，南アフリカなど約40ケ国で，世界の海に面する国のほとんどに及ぶ．各章ではそれぞれの国の海藻植生とフローラ，資源海藻の分布・採取と栽培の状況に次いで，用途別の資源海藻の記述が続く．主な用途は食用，寒天，アルギン酸，カラギーナン，農業用の肥料などであるが，最近各国が寒天，アルギン酸，カラギーナンの藻工業の資源海藻の増産に特に注目している状況が読み取れる．資源海藻の生産高の年推移の表やグラフが随所に挿入されるので世界の海藻資源の大要を知るにも便利である．執筆者はそれぞれの国のこの分野のリーダー的な人々で，写真入りのプロフィールが巻末に紹介されている．購入先は 781-1164 土佐市宇佐町井尻 194 高知大学海洋生物教育研究センター 大野正夫 FAX: 088-856-0462. E-mail: mohno@cc.kochi-u.ac.jp.
（千原光雄）

□舘脇正和，星澤幸子：**食べてわかった昆布パワー** 133 pp. 1999. 北日本海洋センター．¥700（税込）．

いささか受けを狙ったような題名であるが，学問的に裏づけられた真面目な内容の本で，コンブがもつ物質がどのようにして人の健康保持に役立つかがわかりやすく書かれている．著者の一人，舘脇正和博士は海藻の培養・栄養生理・生活史等の研究で業績を挙げた北海道大学名誉教授であるが，永年苦しんだ大腸ポリープをコンブで完治させた経験から「藻食論」を提唱するようになったという．博士は1日5 gr の乾燥コンブの摂取を推奨している．本書では，コンブの粘液中に含まれるアルギン酸やフコイダンなどの物資をパトロール隊に見立て，取り込まれた食物が口，食道，胃，腸，そして肛門にいたる過程で，パトロール隊によりいかによく交通整理され，必要なものはきんちと吸収され，悪いものはパトロール隊がもつ水溶性食物繊維などのはたらきでいかに健全な便として排泄されるか，などについて楽しいイラスト入りで要領よく記述している．本書の前半部にはこのあと食用コンブ9種の植物学的な記述がある．後半部には共著者によるコンブを食材にした簡単な料理 20 余種が紹介される．前半部の冒頭の舘脇博士と共著者との対談中のコンブによる大腸ポリープ殲滅の下りはなかなかの迫力である．他の藻類についても同様な書の刊行を期待したい．（千原光雄）